



は が
ほど くらい

文法を楽しく!!

ぶん ぼう たの

「そうだ／ようだ
／らしい」(1)

皆さんはケーキが好きですか。それとも、苦手ですか。
では、目の前にあるケーキを見たとき、あなたはど
う言おうでしょうか。

- (1) このケーキはおいしそうだ。
- (2) このケーキはおいしいようだ。
- (3) このケーキはおいしいらしい。

「おいしそうだ」(この「そうだ」は様態の「そうだ」と呼ばれる。)、
「おいしいようだ」「おいしいらしい」は、いずれも、話し手が
ケーキを見て(情報を得て)、考えて(想像し判断して)、
発話した表現です。よく外国の方々から、「そうだ」「よ
うだ」「らしい」の使い分けがわかりにくいという声を聞
きます。今回はこの3つを中心に、想像して判断する表現
を取り上げます。(それぞれの文法的な説明については、
表2を参照してください。)

今、「情報を得て」想像して判断すると言いましたが、
それについて少し考えてみましょう。「情報を得る」こと
を、その情報を得たときの状況、つまり「情報取得時の状
況」と、その情報に話し手はどの程度関心があるのかとい
う「関心の度合い」の2つに分けて考えます。

a 「情報取得時の状況」

ケーキを間近に見るときは、ケーキの色・形もよく見え、
匂いもかぐことができますね。場合によってはちょっと触
ることもできるかもしれません。一方、ケーキを店先の
ショーケースの中で見た場合、テレビで見た場合、写真
で見た場合、また、人からケーキの話聞いた場合などは、
少しケーキから離れていると言えるでしょう。前者は情報
取得時の状況が「直接的」、後者は「間接的」になります。

b 「関心の度合い」

一方、ケーキを見たり、聞いたりしたときの、「話し手」
の気持ちや状態も重要です。お腹がとてもすいている、
ケーキが大好きだ、ケーキが食べたかったという人も
いるでしょうし、一方で、甘いものは好きじゃない、だ
からケーキも好きじゃない、今はお腹がいっぱいだという
人もいます。前者の場合、そのものに対して関心の度
合いが高い、後者を関心の度合いが低いと考えること
にしましょう。

様態「そうだ」、そして「ようだ」「らしい」の使い分けは
「情報取得時の状況」と「関心の度合い」に大きく関わり
ますが、どちらかという、「関心の度合い」がより大き
く影響すると思われます。なぜなら、友達からケーキ
をおすすめするときに、

をもらって手にしても(情報取得時の状況が直接的)、
食べたくない(関心の度合いが低い)ときもあるし、逆に
話を聞いただけで(情報取得時の状況が間接的)、よだれ
が出てくる(関心の度合いが高い)こともあるからです。
3者を比較すると、次のようになります。

表1

	情報取得時の状況 じょうほうしゅとくじ じょうきょう	関心の度合い かんしん どあ
様態「そうだ」 ようたい	直接的 ちやくせつてき	関心大 かんしんだい
「ようだ」	直接的・間接的 ちやくせつてき かんせつてき	関心やや大・中 かんしん だい ちゆう
「らしい」	やや間接的 かんせつてき	関心中・やや小 かんしんちゆう ややしゆう



- 会話1
- A1: おでんを作ったんだけど、見てくれる?
B1: うん。<鍋の中を覗く>おいしそうね。
A2: どう?
B2: <箸でつつきながら>ほかのはいいいけど、
大根はまだかたいうね。
A3: …。
B3: 大根はやわらかくなるのに、時間がかかる
らしいから。

(発話の順番を1,2,3で表します。A2はAの2つ目の発話とい
うことです。(以下同様))

会話1でBは、鍋の中を直接見て、湯気や匂いから直感的に「おいしそうだ」(B1)と言いました。次にB2で、大根の色具合から、また箸で触ってみて、少しかたいたと思ったので、「かたいうだ」と言いました。「食べたい」という気持ちより、大根の状態を間接的に伝えようとしたと思われます。B3では、先に「大根がかたい」と言ってしまったので、Aを慰めるような感じで、大根が煮えるまでに時間がかかることを人から聞いたように伝えていきます。この「らしい」は情報を聞いたという意味で、伝聞の「そうだ」とよく似ています。

会話2 A1: たくさんの人が並んでいるね。
 B1: あ、3D映画をやっているんだ。
 A2: 3D映画はおもしろいそうだ/らしいよ。
 B2: うん、そうらしいね。

会話2のA2では、「らしい」と伝聞「そうだ」はほぼ同じ意味になります。B2では「そうらしいね」を使っていますが、伝聞の意味合いを強めるために、「そうだそうだね」と言うこともできます。

今までは形容詞(おいしい、かたい、など)を使って「そうだ」「ようだ」「らしい」を考えました。次に動詞の場合を取り上げます。

会話3 A1: <空を見上げて>雨が降りそうですね。
 B1: ええ、午後から降るようですよ。
 A2: 天気予報でそう言っていましたか。
 B2: ええ、午後から天気が崩れるらしいです。

会話4 A1: 今「雪」っていう本を探しているんですが、なかなか見つからなくて。

B1: そうですか。じゃ、〇〇書店へ行ってみましょう。

<〇〇書店で>

A2: 大きい本屋ですね。ここならありそうですね。

B2: ええ、たいていの本はあるらしいですよ。

<しばらくして>

B3: 「雪」はありましたか。

A3: いろいろ探しましたが、ないようですね。

B4: そうですか。ありませんか・・・。

動詞の場合も、表1のように、「そうだ」「ようだ」「らしい」が主に情報取得時の状況と話し手の関心の度合いによって決まるということには変わりはありません。

形容詞+様態「そうだ」が外観から受ける感じを表すことが多いのに対し、動詞+様態「そうだ」の場合は、その事態が起こる可能性を表す場合が多くなります。

会話3で、Aは空を見上げて、直接的な印象から、「降りそうだ」(A1)と言っています。関心の度合いの高さとともに、雨の降る可能性の高さについても述べています。

それに対してB1では「ようだ」を用いて答えていますが、Bが実際に空を見ているのかは不明で、雨が降ることに対してそれほど関心が高いとは言えないと思われま

す。次にB2で「天気が崩れるらしい」と言っていますが、これは天気予報で聞いたことを伝えていると考えられます。情報が間接的で、伝聞「そうだ」(天気が崩れるそうだ)

に似た使い方をして

います。
 会話4では、ほしい本を求めて、AとBは〇〇書店へ行きました。〇〇書店は大きい書店で、周りを見回しただけでも本が豊富にあり、Aは探している本が見つかる可能性は高いと思

ったにちがいません。そこで、Aは「ありそうだ」(A2)と言いました。一方、Aを〇〇書店まで案内してきたBは、前にほかの人から〇〇書店のことを聞いていたので、B2で間接的に「あるらしい」とAに伝えました。(この「あるらしい」はやはり伝聞「そうだ」に近い意味合いを持っています。)

表2

様態「そうだ」
イ形容詞・ナ形容詞の語幹、または、動詞のマス形に付く。否定の形は「そうだ」の前を否定にする形1(形容詞:「-なさそうだ」(おもしろなさそうだ)、動詞:「-な(さ)そうだ」(降らな(さ)そうだ))と、「そうだ」そのものを否定にする形2(形容詞:「-そうではない」(おいしそうではない)、動詞:「-そうに(も)ない」(降りそうに(も)ない))がある。形2のほうが、話し手の否定する気持ち
「ようだ」
動詞、イ形容詞・ナ形容詞、「名詞+だ」の普通形に付く。ただし、「名詞+だ」の非過去の場合は「-のようだ」(雨のようだ)、ナ形容詞の場合は「-なようだ」(元気なようだ)となる。言い切りの形で用いられる以外に、「~ような気/感じがする」「~ように思う/思われる」のように「~ように」「~ように」の形で用いられることが多い。「春のような暖かい日」のような比喩的な使い方もある。
「らしい」
動詞、イ形容詞・ナ形容詞、「名詞+だ」の普通形に付く。ただし、「名詞+だ」とナ形容詞の非過去の場合は、「名詞・ナ形容詞の語幹+らしい」(雨らしい、元気らしい)となる。「らしい」は「ようだ」に比べてやや書きことば的と言える。「春らしい1日」のような「典型的な」という意味を表す用法もある。
伝聞「そうだ」
動詞、イ形容詞・ナ形容詞、「名詞+だ」の普通形に付く。否定は「そうだ」の前を否定にする形(おもしろくないそうだ、降らないそうだ)をとり、「そうだ」そのものを否定にする形(×おいしいそうではない、×降るそうではない)は使われない。人から聞いたことを伝える役割を持つが、話し手の早く伝えたいとか、価値がある情報だという気持ちを含んでいることが多い。また、様態「そうだ」が疑問(おいしそうですか、降りそうですか)に用いられるのに対し、伝聞「そうだ」では疑問の形(×おいしいそうですか、×降るそうですか)は使われない。

このコーナーの担当者: 市川保子 (日本語国際センター 客員講師)

このコーナーについてご感想やご質問があれば送ってください。